

日本で男女共同参画が進まない理由・進めることによる経済効果の仮説
(ハードウェア的な仕組みではなく、ソフトウェア的な慣行からの視点)

2011/4/27
勝間和代

1. なぜ日本で男女共同参画が進まないのか

私の仮説

・男性と女性の「共依存」関係である。

ー男性は女性を排除することで、競争の激化を防ぐ

ー女性は「女性である」ということを理由に、競争への参加をしなくてすむ

そして、この2つを許す社会システムが隅々まで温存されている。価値観・税法など。

2. では、なぜ海外ではこの共依存が許されないのか

私の仮説

・男女の役割分担を行う社会のシステムの方が生産性が低いため、淘汰されてきた

ー男女共同参画社会の方が、労働生産性が高く、利益も大きい

ー日本と異なり、海外先進国の多くは「グローバル市場」への依存度が高く、競争の結果、男女共同参画をやらざるを得なかった

3. 今後、どうすれば男女共同参画が進み、経済効果が生まれるのか

私の仮説

・市場淘汰を促すことが基本。ベンチャー企業は男女を問わない。新しい分野はどんどん女性の経営者もいる

・ただし、それを後押しする仕組みは必要。すなわち

「女性が市場競争力を持つようにする」こと

解の方向性

- ・女性に対するキャリア教育の徹底
- －品川女子学院の28歳プロジェクト
- －男女同格の教育水準を目指す

例:東大の男女比率は？

これまでの問題点は、男女共同参画をすれば、社会がよくなり、競争力が増すような誤解があったが、経済力を上げるために実際に必要なのは

「女性が市場経済で、結婚し、子どもを産んでも、生き残れる優位性」

を作ることである。

それに基づいた、教育システム及び企業へのサポートが必要ではないか。

以上